

平成 24 年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰

## JF シェルナースの取組が農林水産大臣賞を受賞

平成 24 年 10 月 30 日 KKR ホテル東京にて、リデュース・リユース・リサイクル推進協議会が主催する「平成 24 年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」で、長崎県や大分県での JF シェルナースの取組『漁業者による貝殻を活用した漁場改善に向けた取組の展開』が高い評価を受け、長崎県漁業協同組合連合会と大分県漁業協同組合の連名で「農林水産大臣賞」を受賞しました。受賞の様子は水産経済新聞、水産タイムス、みなと新聞などでも掲載されました。

### 表彰式の様子



JF 長崎漁連 原田英治 購買課長

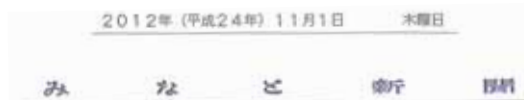


JF おおいた 山本勇 代表理事組合長



### 記念撮影

- JF おおいた 山本勇 代表理事組合長
- JF おおいた 購買課 新川哲浩 課長
- JF 長崎漁連 購買課 原田英治 課長
- 海洋建設(株) 片山真基 社長



### JF長崎漁連とJFおおいた 農水大臣賞を受賞

海洋建設のシェルナースで貝殻リユース

循環型社会の形成に向け  
た活動をたたえ、リユース・リユース・リサイクル推進協議会の功労者表彰  
で、JF長崎漁連とJFお



表彰式は10月30日、東京都千代田区のKKRホテル東京で行われた。JF長崎漁連とJFおおいたは、カキ養殖の副産物として発生する貝殻を有効活用して人工魚礁を製作しているが、これまで1059トンの貝殻がリユースされ、全国の漁業者とRする分の普及活動にも力を入れている。平成24年度のシェルナースの生産数は調査範囲の65%を占める。表彰式にはJF長崎漁連

おいたが農林大臣賞に輝いた。表彰式は10月30日、東京都千代田区のKKRホテル東京で行われた。JF長崎漁連とJFおおいたは、カキ養殖の副産物として発生する貝殻を有効活用して人工魚礁を製作しているが、これまで1059トンの貝殻がリユースされ、全国の漁業者とRする分の普及活動にも力を入れている。平成24年度のシェルナースの生産数は調査範囲の65%を占める。表彰式にはJF長崎漁連

### 3Rで大臣賞受賞

JF長崎漁連  
JFおおいた  
シェルナース評価

リデュース・リユース・リサイクルの取り組みを開始し、その結果として、平成24年度の「3R」推進功労者表彰で、農林大臣賞を受賞した。JFおおいたは、カキ養殖の副産物として発生する貝殻を有効活用して人工魚礁を製作しているが、これまで1059トンの貝殻がリユースされ、全国の漁業者とRする分の普及活動にも力を入れている。平成24年度のシェルナースの生産数は調査範囲の65%を占める。表彰式にはJF長崎漁連



賞状を授け、農林大臣賞を受賞した。JFおおいたは、カキ養殖の副産物として発生する貝殻を有効活用して人工魚礁を製作しているが、これまで1059トンの貝殻がリユースされ、全国の漁業者とRする分の普及活動にも力を入れている。平成24年度のシェルナースの生産数は調査範囲の65%を占める。表彰式にはJF長崎漁連

# 全漁連情報

## JFおおいたとJF長崎漁連が農水大臣賞 リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰

2012年度のリデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰(主催・リデュース・リユース・リサイクル推進協議会)で、JFおおいたとJF長崎漁連が農林水産大臣賞を受賞した。JFシェルナースの「漁業者による貝殻を活用した漁場環境改善に向けた取り組み」が評価されたもので、10月30日、東京・千代田区のKKRホテル東京で行われた表彰式には、山本勇JFおおいた組合長と原田英治JF長崎漁連購買課長が出席した。



表彰を受けるJFおおいたの山本組合長(中央)とJF長崎漁連の原田課長(左)

カキ養殖などで副産物として発生する貝殻を有効活用するJFシェルナースは、貝殻をメッシュパイプ(直径15センチメートル、長さ1メートル)に詰め込んだ基質を鋼材等を使用して組み上げた人工魚礁。これまで製作したJFシェルナースの基質本数は、JFおおいたが約14万本、JF長崎漁連が約17万5千本で、リユースした貝殻に換算すると、それぞれ855トンと1,059トンにもなる。また、小学生を対象とした基質製作体験を開くなど、地域における豊かな海づくりや貝殻リユースの啓発・教育活動への取り組みも評価されており、それぞれ県のリサイクル製品としての認定も受けている。



# 農林水産大臣賞 (1 件)

Reduce Reuse Recycle

## 農林水産大臣賞

「事業所・地方公共団体等」分野

受賞者名

長崎県漁業協同組合連合会 (JF 長崎漁連)

大分県漁業協同組合 (JF おおいた)

所在地

長崎県長崎市、大分県大分市

受賞テーマ

漁業者による貝殻を活用した漁場環境改善に向けた取組の展開

同連合会と同組合は、カキ養殖業等の副産物として発生する貝殻を活用した漁場環境改善に向けた取組を、JF おおいたでは平成 10 年より、JF 長崎漁連では平成 13 年より展開している。

カキ養殖業が盛んな地域においては、養殖業を営む漁業者にとって、毎年発生する貝殻の処理は頭の痛い問題となっており、漁業者団体としてこの貝殻のリユースに取り組んだ。この際に着目したのが、貝殻を使用した人工魚礁 (JF シェルナース) であり、これは貝殻を直径 15cm、長さ 1m のメッシュパイプに詰めたシェルナース基質を、鋼材等を使用して組上げたものである。

シェルナース基質には貝殻の隙間にエビやカニなどの魚の餌となる小型動物が大量に繁殖し、人工魚礁部材として活用することで、海洋における生物多様性や生物生産性の向上に貢献することができる。JF 長崎漁連及び JF おおいたでは、このシェルナース基質の製作を漁業者と協力して開始し、その利用に向けた推進や普及活動にも積極的に取り組んでいる。

具体的な活動内容としては、①シェルナース基質の製作指導及び数量・品質の管理、②JF シェルナースの普及活動、③JF シェルナースの効果調査、④環境学習等への参加・展開などである。これまでに製作したシェルナース基質の本数は、JF 長崎漁連で約 175,000 本 (平成 14 年～平成 23 年)、JF おおいたで約 140,000 本 (平成 10 年～平成 23 年) に至っており、それぞれ 1,059 トン、855 トンもの貝殻がリユースされている。効果調査の実施や漁業者や水産関係者らに対する効果の PR などの推進活動を積極的に展開しており、平成 23 年度におけるシェルナース基質の生産本数は JF 長崎漁連と JF おおいたで全国の 65% を占めている。

また、全国豊かな海づくり大会や一般市民向けの物産展における展示による普及活動、小学生を対象とした基質製作体験学習なども展開しており、地域における豊かな海づくりや貝殻リユースの啓発・教育にも尽力している。これらのような取り組みが評価され、シェルナース基質は、平成 20 年度に大分県リサイクル製品、平成 22 年度に長崎県リサイクル製品としての認定を受けている。



▲集積された貝殻



▲完成した基質の数量・品質確認



▲陸上に引き揚げての公開調査



▲調査後の報告会